

# しました

何事も始めへんかったら始めたら始めよ

性別によって得意なこともあるよね！それを活かす方法って何だろう？

まず家庭が女性を地域に送り出す体制が大事やなあ



▲大きな紙芝居で発表されたひまわりグループ

女性の地域活動の推進と地域の課題について考えていただくために、7月から12月までに全4回の連続講座を開催し、4つのグループに分かれて地域づくりについて話し合っていたきました。

講座を受講いただいた皆さんには、地域づくりにむけて身近な地域の課題を分析し、その課題に対する解決策の検討を行っていたきました。

2月15日（土）に行った成果発表会では、皆さんが検討された内容を発表されました。会場では、発表者と会場で聞いておられた方との活発な意見交換が行われるなど、さまざまな意見や議論が飛び交いました。

「おいしいコーヒーを飲みながらほっと一息つける場所にしてほしい」

必佐公民館の喫茶スペースを活用したコミュニケーションづくり

「地域や家庭での絆ってやっぱり大切。日野町の強みである公民館が地域の絆を築いていく場所にしよう」と地域の人や物（公民館など）を活かす取り組みを提案されました。



▲議論の様子を寸劇で発表されたさくらグループ

「公民館に地域のみんなが集まって、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に昔遊びをする機会を作ろう」

おじいちゃん、おばあちゃんの知恵を活かしたコミュニケーションづくり

「つばきやきノートを置いて、子育ての悩みとかが聞いてもらったり、相談したりできるようにしてもいいよね」

「オール日野で活躍するチームを作る」

みんなで意見を出し合い、これからの日野町について考えていこう

「志を持つ住民が集まって、舞台を日野町全体とした伊藤みき選手応援会やらランRUNひのチャレンジマラソンのようなイベントを行い、活躍する時期にきてくる」

「住民の意見を聞くのもよいけれど、日野町のプロとして行政の意見も聞きたい」

自治会等に女性等の意見を取り入れていくにはどうすればよいのか

女性の視点、行政の視点を大切にして、オール日野でまちづくりを進める仕組みづくりなどを提案されました。

# 女性の視点を活かす 地域づくり講座の成果を発表



▲日野らしい言葉で発表された  
老若男女グループ

女性の「コミュニケーション力を活かして人・情報・物などの地域資源の交流により、居場所とネットワークづくりの提案をされました。」

**日野地区の防災・減災に対する住民の意識を高めよう**

「自治会内での女性グループの育成と、防災情報の収集と家庭への発信の場としてよう」

「地域の防災意識を高める具体的な拠点が必要」

「防災かまどベンチ（普段はベンチとして使用し、非常時等はかまどとして使用できるもの）を設置し、地域の人が集まって交流する場にしよう」

今回の講座をきっかけとして、地元NPOひびきあい日野と連携し、日野公民館にかまどベンチを設置してくださいました。

**自治会内での女性の役割や活動の場を増やそう**

「自治会に女性の意見をくみ上げる仕組みを作ろう」

「女性が自治会の仕組みを知るための学習グループを作ろう」

「公民館、NPOなどの協力者のネットワークをつくろう」

「地域の人材であるおじいちゃん、おばあちゃんが予守りをする仕組みがあるとういこと」



▲会場に意見を求める等、会場が一体となった発表をされた ユースな西大路グループ

**西大路地区で活躍する西大路ユースクラブと西大路女性会をさらに活かしていこう**

「地域の美化活動に人が集まらない。これを変えていくために美化活動を地域の子どもと大人が一緒に行い、出会いと地域の繋がりを広げる場にしていこう」

「防災についても考えていかないと。例えば美化活動と一緒に子ども達に人気がある起震車などを体験できる防災イベントを公民館で行ってはどうか」

「自治会で防災のチラシを作った、家族で話し合う機会をつくる。そうした取り組みの中から地域も家庭もコミュニケーションが生まれてくるのではないか」

「自治会と団体のネットワークを築くことで、活動や取り組みに協働の輪を広げていこう」

## ◆問い合わせ先

企画振興課 企画人権担当

☎ 6552

地域で活躍されている社会教育団体の活動をさらに広げていくため、これまでの取り組みを通じて提案をされました。